

# 地域医療充実に向け 鳴門病院でシンポジウム開催



意見を発表するシンポジスト等

「地域医療の充実」を考えると題したシンポジウムが2月13日、健康保険鳴門病院で開催されました。これは「健康保険鳴門病院の公的存続・充実を求める会」が、医療機関と地域住民、自治体が共同で、市民の命と健康を守る地域医療を育てようと開催したもので、病院や自治体の関係者、地域住民など約180人が参加しました。

最初に会の代表幹事の田辺健二さんが「鳴門病院は廃止・民営化の動き以外に循環器科の医師4人が3月末

に退職する予定で、存続の危機に立たされています。しかし、鳴門病院の公的存続で地域医療の確保を求める請願署名は3万6千人を超えました。市民と行政が一体となってこの運動を成功させましょう」と呼び掛けました。

続いて4人のシンポジストがそれぞれの立場から意見を述べました。最初に医師で兵庫県保険医協会の武村義人副理事長が「医師と住民の溝を埋めなければなりません。医師不足は、拡大する医療費が国を滅ぼすという医療費亡国論から出ており、診療報酬の長年の据え置きや、医学部の定員削減などによりもたらされませんでした」と指摘しました。

泉鳴門市長は「鳴門病院の存続に向けた請願は市議会も採択してきました。鳴門病院を核とした救急医療体制はぜひ守っていききたい。今、医師不足の上に救急医療や安易に夜間診療を受ける『コンビニ受診』により、病院スタッフは過重労働に



陥っています。今回の循環器科医の退職には、早急に飯泉知事や徳島大学病院に市議会とも連携の上、医師確保の要望を行います。市民の皆さんも医師を過重労働から守るため、病院ボランティアの活動をしたり、コンビニ受診を減らしたりしていただきたい。病院は社会資源であり、病院が崩壊すると地域社会が崩壊するため、医師会と歯科医師会、薬剤師会、行政で構成する医療懇話会とは別に、市民や患者さんも加えた仮称『医療議会』をつくりたい」と発言しました。

## 物品購入等競争入札及び 随意契約参加資格の申請を

市では平成22年度から物品、役務、小修繕の発注について公正性と透明性の観点から事業者登録の制度を始めます。

市が発注する物品等の調達に係る競争入札または随意契約(見積り合わせ)に参加を希望される事業者のかたは、次のとおり申請書類を提出してください。

**参加者の資格** 次のいずれにも該当しないかた

- ① 当該入札等に係る契約を締結する能力を有しない者
- ② 破産者で復権を得ない者

**受付期間** 随時(土、日、祝日を除く)

**有効期間** 名簿への登録から2年間

**提出方法** 〒772-8501 鳴門市撫養町南浜字東浜170番地 市役所総務課契約検査室まで持参または郵送してください。  
※必要な書類の詳細・様式等は市ホームページをご覧ください。

**☎** 市役所総務課契約検査室(☎ 684・1161)

ことを、自身の妻の鳴門病院での闘病生活で紹介。そして「今は自分の健康は自分で守ろうと努めています。何かのときはお世話になる

中核病院としての鳴門病院はぜひとも必要です」と訴えました。

最後に鳴門病院の看護師をしていた澤村澄さんは「鳴門病院のあり方は医療機関まかせ、自治体まかせになってきました。住民ができることはたくさんあります。しかし医療情報が少ないので、地域医療の枠組みをつくり、住民に何ができるか、情報提供をしてほしい」と要望しました。

このあと質疑応答が行われ、参加者たちは地域医療をどうすれば守っていけるか、意見を出し合いました。

## 市・市議会が大学病院に 鳴門病院医師確保を要請

泉市長と野田市議会議長ら市理事者と市議会代表者は合同で2月16日、県庁と徳島大学病院を訪れ、飯泉知事と香川病院長に鳴門病院循環器科医師の確保をそれぞれ要請しました。

# 救急出動の35%は軽傷病者

救急救命士 三原 功裕

平成21年中の鳴門市消防本部からの救急出動は2106件で、1日当たり5・7件でした。そのうち734件、率にして35%は軽い傷病のケースでした。緊急でないのに救急車を要請すると、本当に救急車が必要とする事故や急病が発生した場合に緊急出動ができず、手遅れになる場合も出てきます。救急車を呼ぶときは、緊急を要するときだけにしてください。

救急車は1分1秒を争う、遅れると大きな後遺症が残る、あるいは致命的な傷病が懸念されるときなどに要請するものです。救急車の要請を受けると、救急隊員はすべて病院へ搬送してい

ます。しかし病院からの報告書を見てみますと、緊急を要しない要請もときどき見受けられます。夜間の要請が比較的多いのですが、夜間当番医の先生が個人でも見ていただけますので、緊急でないときはテレホンガイドなどで確かめて診察を受けてください。とくに持病があるかたは日ごろから主治医をつくられて、定期的を受診するなど、ご自分の病状を把握しておくとういと思えます。子どもさんが高熱で引き

つけをおこし、救急車を呼ぶケースも多いのですが、救急車が着くころは引きつけは治まっている場合が多いです。場合によっては、「子ども救急電話相談#80000番」をかけて相談するのもよいかもしれません。救急車を呼ぶときは、あわてると、そのぶん到着が遅れます。落ち着いて、お尋ねすることだけの確にお答えください。

夜間当番医 テレホンガイド(☎685・3322)に問い合わせください。休日当番医 広報なると「すこやかライフ」に掲載しています。



子ども救急電話相談は県が設置した相談窓口で、毎日午後6時から翌朝8時まで看護師や小児科医が相談に応じてくれます。子どもさんが医療機関で受診したほうがよいのか、様子を見ても大丈夫なのか、場合によっては救急車を呼んだらよいのか、ア

## 徳島子ども救急電話相談#8000 毎日午後6時～翌朝8時、利用できます

子ども救急電話相談は県が設置した相談窓口で、毎日午後6時から翌朝8時まで看護師や小児科医が相談に応じてくれます。子どもさんが医療機関で受診したほうがよいのか、様子を見ても大丈夫なのか、場合によっては救急車を呼んだらよいのか、ア

- 1 お子さんが急な病気で心配なとき
- 2 局番なしの#8000 または、088-621-2365 までお電話を
- 3 看護師・小児科医が電話で相談に応じます

## 県立鳥居記念博物館の市への移管後の活用

① 以前に塩業資料館の設立計画がありました。鳴門で400年も続いた塩業の資料が散在しているのを、そうした資料を展示してほしい。

② 現在の記念館には、博士が中国東北部で発見したドルメンを模した墳墓がつくられ、夫妻が眠っておられます。日本の神社には偉人を祀る伝統がありますので、鳥居神社にしてはどうですか。

③ 1 鳥居博士を含めた、幕末から明治の偉人館にする。 2 岡本監輔(1839年～1904年)穴吹町出身、樺太探検家、東京大学予備門教諭。台湾より帰国後の状況報告会で鳥居博士と出会う。 3 三宅速(1866年～1945年)穴吹町出身、九州帝国大学医学部初代外科部長。欧州視察から帰国途中、同船していたアインシュタインの盲腸炎を診察し親交を結んだ。

広報なると2月号で鳥居記念館の市への移管後の活用方法について意見や提案を募集したところ、3名のかたからご提案をいただきました。要旨を紹介いたします。

▼三宅蕪村(速の父、1834年～1874年) ② 鳴門の城と水運 古代から近世はじめの鳴門を展示 阿波北東部の文化と古墳、木津城、土佐泊城、岡崎城と御殿、土佐日記と鳴門、などを紹介する。 ③ 3 市・県の教育委員会等で所有している埋蔵文化財、家庭で眠っている刀・鎧甲などを提供してもらい展示する。ご提案ありがとうございます。

### 意見交換会

市では、現施設の耐震化が可能であれば、鳥居博士を懐かしみ、手軽に訪れることができる施設となるよう、移管後の活用方法を市民の皆さんと一緒に検討します。

とき 3月6日(土) 午後2時から、 場所 地場産業振興センター



鳥居記念館では3月末まで移転記念展を開催中